

ミヤマトベラ *Euchresta japonica* Hook.f. ex Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の半低木または低木。茎の下部は横にはって根を出し、上部は直立し、大きいものは高さ 80cm になる。葉は互生し、長さ 4~6cm の柄があり、葉身は 3 出葉、小葉は楕円形~倒卵形、先端は鈍頭~円頭、基部は円形、長さ 5~9cm、幅 3~5cm、薄い革質、表面は深緑色で光沢があり、辺縁は多少裏側に巻き込み全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端の総状花序に、白色の蝶形花をつける。豆果は楕円形、長さ 12~15mm、幅 8~10mm、長さ 4~8mm の柄があり、黒紫色に熟し、中に 1 個の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（芹沢 82574, 2007-10-6）、12 新城（鳥居栄一 s.n., 2004-9-12）。それぞれ小群落がある。

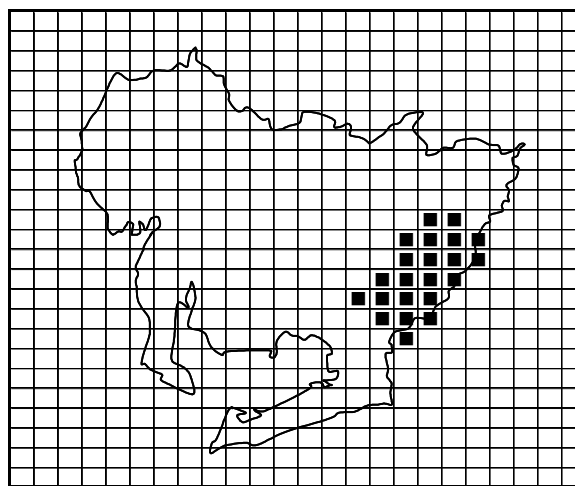
【国内の分布】

本州（関東以西の太平洋岸地域、兵庫県、山口県）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、中国大陸（広東省・広西省）。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林内に生育する。時にはかなり暗い場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来北東部（鳳来寺山）は、昔からよく知られた自生地である。現地の森林は国指定天然記念物として保護されているが、観光地であるだけに攪乱も受けており、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

それほど目立つ植物ではないが、個別的な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、光沢のある小葉がトベラの葉に似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.343, 平木本 I p.242, 平新版 2 p.267, SOS 旧版 p.59.